

都道府県別賞一等

ライフプランと生命保険

新潟県 新潟大学附属長岡中学校

三学年

近藤 希成

私はこの春、「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」の資格を取得した。この資格を取ろうとしたきっかけは、父の言葉にあった。

中学二年生の冬、勉強に身が入らない時期が続いていた。それを何げなく父に相談したところ、「保険とか、ライフプランについて勉強してみたらいいんじゃないか？」という全く予想していなかった答えが返ってきた。

「なんでまた保険の勉強なんてするの？」

「そりゃ、ためになるからだよ。気分転換にもなるし、今のうちから知っておいて損はないぞ。」

保険関連の会社に勤務しているわけでもなく、普段保険について話すことも無かった父の言葉で興味がわいた。そこで、保険やライフプランについて学べる資格、いわゆる「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」に挑戦することに決めた。

勉強を始めてみると、確かに面白い。学習内容はライフプランニングや税、不動産や相続と、本当に多岐に渡る。父の言っていた保険やライフプランについての内容もあり、特に学ぶのが楽しかった。

学んでいくうちに、今までの自分の保険についての知識がいかに浅かったかを思い知った。生命保険は私的保障の一種であり、似た保障内容のものでは社会保険の公的医療保険や労災保険があるということをまず知った。そんな中でまず私が生命保険に対して抱いた印象は、「社会保険でまかないきれない分を保障するもの」というものだった。社会保険でもリスクに備えられはするが、正直全てのリスクや損害をカバーできるのかといえば、不安が残る。生命保険では保険料がかかる分、より多彩な保障と多額の保険金を受け取ることができる。いわば生命保険は、自分の歩みたい人生をリスクに邪魔されないための、最後の砦なのだ。また、自分が死亡したとき、遺していかなければいけない家族がいる場合、その家族の生活や人生を守るものにもなる。

生命保険は、年齢や生活状況などによって保険料が変動する。また満期保険金や解約返戻金の有無、保険会社ごとの保険金支払能力の見極めなど、熟考が必要なところも多くある。必要にかられたからといって、他の人に任せて安易に加入を決めるのは危険、という側面もある。自分で知識を身に付け、自分で選び、ライフプランニングをすることが必須なのだ。父が私にこの分野の勉強

第60回中学生作文コンクール

をすすめた理由が良く分かった。
生命保険について学んでみて、私の将来観は変わった。今までとはただ、自分の夢のために努力することしか考えていなかった。自分がしたいこと、歩みたい人生、それに伴うリスクとそれに備える手段を、中学生の今に考え、学べたことは私の大きな転機になった。自分の人生を自分らしく歩むため、生命保険をうまく使っていきたい。